緊急
シンポジウム

新型コロナワクチンを考える

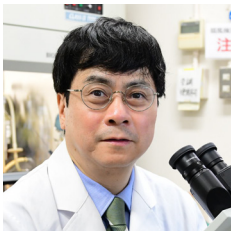
～ワクチン後遺症、ブレークスルー感染、接種証明～

国民の 75%以上が新型コロナワクチンの2回目接種を終えました。
しかし、低下した抗体を上げるためとして、この 12 月から3回目の接種が始まろうとしています。一方で、接種後死亡が 1359人、重篤が 5621人と、これまでのワクチンにない数の副反応疑いが報告されています。
このワクチンは本当に安全で効果があると言えるのか。
「ワクチン・検査パッケージ」を導入することは正しいのか
―医師、専門家、法律家、政治家を招き、徹底討論を行います。

基調講演

長尾和宏 氏
（長尾クリニック院長）
「演題　ワクチン後遺症の現実」

『ひとりも、死なせへん～コロナ禍と闘う尼崎の町医者、551 日の壮絶日記』（ブックマン社）他、著書多数。



宮沢孝幸 氏
（京都大学ウイルス・再生医科学研究所准教授）
「演題　ワクチンに関する素朴な疑問：分からないのは私だけ?」

『京大 おどろきのウイルス学講義』（PHP 新書）著者。
ウイルス量を減らせば感染リスクを抑えられるとする「1/100 作戦」を提唱。

パネルディスカッション

長尾医師、宮沢准教授に加え、
正木稔子医師（耳鼻科医・新型コロナウイルスを考える会代表・HEAVENESE 専属医）
畑中優宏弁護士（神奈川県弁護士会前副会長）青山まさゆき元議員 他、
各党国会議員の出席を求め、要請中。

2021.12/11(土)

13:00～16:00（最大延長 16:30 まで）

横浜市瀬谷公会堂

（相鉄線三ツ境駅から徒歩 5 分）
＊アクセスは瀬谷公会堂のホームページをご参照ください。

参加費無料

他都市でのシンポジウム開催のため、当日ご寄付いただけると幸いです。

参加ご希望の方は、必ず下記メールアドレスに
お名前記入のうえ、事前にお申込みください。
koewoageyo2021@gmail.com

司会：鳥集 徹（ジャーナリスト）
『コロナ自粛の大罪』『新型コロナワクチン 誰も言えなかった「真実」』（いずれも宝島社新書）著者。

主催：コロナ前の暮らしを取り戻そう！市民の会